

いずかし

植柳小学校校訓 「うつくしく、やさしく、たくましく、かしこく」



八代市立植柳小学校
校長 嶋村 立馬

令和5年6月9日

掃除について考える!!

今週は雨が続き、部屋で過ごすことが多い一週間でした。その雨の合間をぬって、プール掃除とスポーツテストを行うことができ、ほっとしています。子供たちが外で思いっきり体を動かすことができない日々がしばらく続きます。体育館や運動場が使える機会には、精一杯遊んでほしいですね。

火曜日に、今年度初めての全校集会を開きました。今回は、掃除の意義について子供たちと考えました。掃除の様子を見ていると、隅々まで掃除がしてある場所もあれば、掃除の後すぐにゴミが落ちている場所もあります。やらされる掃除から、意義を考えて取り組む掃除にしていけたらと思います、この話題で話そうと思いました。掃除は何のため



にするのかと訪ねたところ、「教室や廊下をきれいにするため」と低学年の子供たちが答えてくれました。そして、他の人のことを考えて掃除に取り組むことの大切さについて、前日に行われたプール掃除を例えに話をしました。プール掃除には5・6年生が取り組んでくれたのですが、「きっと5・6年生の皆さんは、みんながプールで足を滑らせないように、プールサイドで滑らないように、プールのトイレを気持ちよく使えるようにと、1年生から4年生までの皆さんのことを考えながらプール掃除に取り組んでくれたと思う。みんなも次に使う人のことや一緒に使う人のことを考えて、掃除に取り組んでほしい。」と話しました。みんな、掃除は何のために行っているのか、考える機会になってくれたらと思います。そして、掃除を通して相手のことを考える力や気づく力を育てていけたらと思っています。

時を守り、場を清め、礼を正す

全校集会では、掃除の話とともに「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を紹介しました。この言葉は、明治時代の哲学者の森信三氏の言葉です。この言葉は、教育現場はもとより、企業や教育の場など多方面で活用されている言葉です。

「時を守る」とは、定刻までには準備を整え、心を静めて開始を待つということです。時を守る先には、必ず相手があります。自らが時を守ることは、相手を尊重することだと考えます。

「場を清め」とは「整理整頓をし、隅々まで掃除をする」ということです。隅々まで掃除をすることは、見えにくいことに気づくことであり、そのことが人からの信用や信頼につながっていく、他を敬い、奉仕の心につながっていくと考えます。

「礼を正す」とは「あいさつをする、返事をする」ということです。「挨拶」という言葉には「相手に心を開く」という意味があります。「挨拶」をすることで人間関係は良好に保たれ、挨拶こそが、その相手に対する礼儀につながります。

この3つの言葉に通じるものは、相手を思いやる、相手を敬う気持ちです。そして、この3つを「感謝」の気持ちをもって実行していくが大切となります。植柳小においても、この言葉を形にするため、機会を見つけて、これからも子供たちに伝えていきたいと思っています。